

## I 実践

### 1 研究主題

互いを認め合い、思いやりや助け合いの心を育てる人権教育のあり方

#### (1) 主題設定の理由

本校では、「知恵」「勇気」「思いやり」をもった子どもの育成を目指している。それを受け、人権教育の視点を「認め合い、助け合って人のために尽くすことができる」「誰に対しても思いやりをもって行動できる」とした。

本校の児童は、明るく元気で素直な子が多い。しかし、時として自己中心的になったり、相手を思いやるという配慮に欠けた行動をとったりする場面が見られ、トラブルにつながることも少なくない。

そこで、学校の教育活動全体を通して、一人一人がお互いを認め合い、尊重しあえる態度を育成することをねらいとして本主題を設定した。

#### (2) 研究の内容

- 豊かな体験活動の実践（異学年交流・福祉体験・ボランティア活動）
- 道徳教育の充実
- 人権メッセージへの応募
- 人権教育を意識した学級経営（心の声アンケートや日々の観察等による児童の実態把握）

### 2 実践内容

#### (1) 豊かな体験活動の実践

ア とも遊び・あおぞら班活動（縦割り集団活動）の実施

毎週1回、昼休みと清掃時間をあてて、クラスごとに遊びの計画を立てて遊ぶ「とも遊び」が行われている。また「あおぞら班活動」では、1～6年生の縦割り班集団を14班編成し、6年生が中心となって鬼ごっこやドッジボール、大縄などをして遊ぶ。運動会では、「あおぞら種目」を設定し、このメンバーで大玉送りや綱引きを行った。

イ さわやかマナーアップキャンペーンの実施（あいさつ運動）



年に10回、さわやかマナー週間を設定し、昇降口と正門前であいさつ運動を行った。上学年と下学年の当番のクラスの児童が、PTA役員の保護者とともに活動した。

#### <5月:あいさつ運動>

ウ さわやかマナーキャンペーンの実施（環境ボランティア）

6月、11月に「さわやかマナーキャンペーン」を実施した。6月は、保護者とともに、校舎内の清掃を行った。11月は、例年、校庭や通学路、近くの助川城址公園、ひやっぴょうち公園の落ち葉拾いやゴミ拾いをしていた。今年度は、震災の影響により、計画を変更して校舎内の清掃を行った。



#### <あおぞら班種目>



#### <とも遊び>

エ 地域の方たちとの交流

(ア) 助川小学区大運動会

本校の運動会は、地域の方たちとともに実施する。学年ごとに地域種目があり、児童は地域の方と一緒に競技に楽しく参加した。

#### (イ) 敬老会（４年生）

毎年、９月に行われる助川学区の敬老会では、４年生がソーラン節の踊りを披露した。

#### オ 福祉体験の実践（６年生）

６年生の親子学習会において、視覚障害者の方をゲストティーチャーに迎え、障害のある方への理解を深めた。

#### (２) 道徳教育の充実

各学年とも、めざす児童像にむけて、道徳の時間と他教科や他領域との関連を図りながら、道徳教育を計画的に進めている。また、どの学級も年に１度は道徳の授業を保護者に公開している。今年度は、１１月の学校公開の際に、多くのクラスが道徳の授業を公開した。また、６年生では、本校卒業生である KATS-UMI さんをゲストティーチャーに迎え、道徳の授業が行われた。



＜６年生の授業の様子＞

#### (３) 人権メッセージへの応募

高学年の児童が人権メッセージに取り組んだ。各学級３名ずつ良いメッセージを選び、人権コーナーに掲示した。

#### (４) 人権教育を意識した学級経営

各学級において、学級活動や授業の中で、一人一人が自分を表現する場を積極的に設定し、自分の良さに気づかせ、自己肯定感が高められるようにしている。また、帰りの会などで、友だちの良さに気づかせる場面を設定している学級もある。

### ３ 成果

- (１) 異学年が一緒に遊んだり運動したりすることにより、上級生は、下級生の面倒を見る機会がふえる。その結果、思いやりの心をもって接することが自然に身についてきた。下級生も優しく遊んでくれる上級生に親しみをもって接し、人との関わりを学ぶことができた。
- (２) あいさつ運動では、友だちや地域の方々に対し、大きな声で元気よくあいさつをすることができるようになった。
- (３) さわやかマナーキャンペーンでは、みんなで使う場所をきれいにすることで、児童の中に奉仕の心が芽生えてきた。「教室がきれいになったら、とても気持ち良かった。」「また、やりたい。」という感想をもつ児童も多く見られた。
- (４) 地域の方々と一緒に活動する機会が得られたことで、児童は、様々な人と触れ合う楽しさや素晴らしさを感じることができた。
- (５) 人権メッセージづくりは、人権について考えるきっかけとなった。今回は、震災を経験して感じた人の優しさや思いやりについて触れている児童が多く見られた。またメッセージを校内に掲示したことで友だちの思いに気づいたり、人権についての意識を高めたりすることができた。

## Ⅱ 今後の課題

- ・児童が様々な体験を通して、人権に対する意識をより高めることができるよう、学校生活の場で、人権教育の充実を図っていきたい。
- ・家庭や地域でも人権に対する意識を高めていけるように、連携を図りながら、啓発活動に努めていきたい。

## Ⅲ 人権コーナーの設置の様子

